

史料紹介

『報徳教示略聞記 小林平兵衛翁手記』

仁 木 良 和

1. はじめに
2. 小林平兵衛について
3. 『報徳教示略聞記』について

4. 凡例
5. 史料本文

1. はじめに

幕藩制社会も天保期に入ると、相ついで起った飢饉のために農村荒廃が必至となり、そのために東国地方を中心として、心学運動から報徳運動への転換が各地で見られた。それは、単なる修身の学に堕した心学から、家と村の復興を目的とする新たな実践倫理を求めている農民たちの切実な要求だったのである。

つまり、自然的・人為的危機のために、自然と社会の調和的秩序に確信をもてなくなった農民たちは、新たな主体を形成するための実践倫理を求めていたのであった。そうした意味で、二宮尊徳の思想は、実践倫理を生産倫理として形成することによって、伝統的生活態度をあらため、禁欲的・合理的な労働主体を育成することによって、農村の荒廃を立て直そうとするものであった。

ここでは、こうした時代を背景として、村落指導者は、尊徳の思想のうちに何を求めようとしていたのかを知るために、小林平兵衛の『聞書』を活字化することによって、その一端を紹介しようとするものである。

2. 小林平兵衛について

小林平兵衛（安永8年～嘉永2年 1779～1849）は、安永8年（1779）に茱萸沢村の名主

江藤家の子として生まれ、文化5年（1808）に竈新田村の小林家の養子となった。さらに文政6年（1823）には、組頭に任じられ、文政11年（1828）には家督を悻の惣右衛門に譲って隠居する。しかし、天保7年（1836）には惣右衛門にかわってふたたび家の経営に乗り出し、家の立て直しをはかる。その間の事情を平兵衛は「文政十一子年悻惣右衛門江家得相続為仕隠居安心可致存念ニ御座候得共寸蔭も安堵之心意無之空敷月日を送り候中去ル申年」(天保七年・筆者注)大凶荒飢饉与罷成悻惣右衛門儀暮方必至与差詰り及当惑候ニ付家内者勿論親類一同熟談之上無余儀再家事之世話可仕与申合身代向取調見候所……」（小林家文書）と述べており、天保7年の飢饉の結果、家計が不如意となったというのである。しかしながら、その背景には、小作地を含めた田畑を十町歩以上も持ちながら（文政十一年段階）、凶作による村の疲弊のために小作料が減少し、貸付金の回収も思うにまかせず、家の経営が苦しくなっていったという状況があったのである。

そして、翌年の天保8年には、二宮尊徳の廻村の際、尊徳の教諭を聞き家政の回復にとりかかることになるのである。この間の事情を平兵衛は、「……酉（天保八年・筆者注）三月為窮民撫育之御廻村被成下置其節種々御理解被仰聞候。御教諭中天明飢饉之度、仕出し

候身代者此度の飢饉必死与差詰り難渋ニ陥り候儀者何之不思議も無之天之罪する処又者寒暑輪回草木禽獸之生滅ニ至迄同一ツなる次第有之儘之儀を有之ままニ御教示被成下是迄之所行逸々恐怖歎息仕……」(小林家文書)と述べており、尊徳の指導によって、彼は合計百両を報徳金として差し出すことによって村の復興をはかっていくことになるのである。その後、彼は何回となく桜町をたずね、その時の尊徳の教諭を書きとめて『聞書』を作っていくのである。

また、平兵衛について興味深いことは、彼が組頭となった文政6年ごろから石門心学に接し、その後椎茸販売のかたわら江戸の参前舎に何回となく出かけ、また心学者である菊池良貞や近藤平格とともに御厨地方を廻村したり、平格に従って下総にまで出かけ道話を行ったりしている。こうして彼は熱心な心学の指導者として積極的にこの地方に心学を導入するのであるが、先にも述べたように天保8年尊徳に接すると今度は熱心な報徳運動の指導者として活躍することになるのである。こうした動きは、逆井孝仁氏¹⁾や大藤修氏²⁾からも述べているように、幕末期における心学から報徳への転換として把握されるのであるが、平兵衛は心学運動と報徳運動の両方の指導者としての役割をはたしたという意味できわめて興味深い人物である。また天保8年から大きく報徳に向かうというのではなく、桜町への途中で参前舎に立寄ったりしている事実からも、心学にある程度接しながら報徳運動にもかかわるというように、その運動の転換の中身をさぐるという意味でも重要な人物である。

3. 『報徳教示略聞記』について

本書は、御殿場市竈の小林家所蔵文書のうちの一冊である。小林家には、尊徳の『聞書』が他にも三冊残されており、そのうちここで紹介する本書はもっとも整理され、まとまっている。というのも、おそらく、本書は、先の三冊以外にも『聞書』があり、それらを整理してまとめたもののように思われるからである。実際、その一部は、先の三冊の『聞書』と一部重複している。本書について、佐々井典比古氏は注目すべき語録類の一冊であると言われ、早急な研究・紹介がのぞまれると述べられておられるように(「尊徳研究のための新資料」『尊徳開顕』に所収)、天保期における尊徳の考えを知る上にも貴重な文献のうちの一冊である。本書の中身については、短文が多く、理解しにくいものもあり、尊徳の他の文献と比較して研究する必要があるのだが、ここでは興味のひいたところを若干述べてみたい。

本書は、先に述べたように、村役人であった平兵衛がまとめたものであるためか、村落指導者の心がまえを述べたものが多いようである。例えば、「我身上アトヘヒサリテ。五ヶ年暮セバ自分モ無事ニ而。小前ノ身上ヲ立直ス也。然レ共後ノ世話ヲセネバ。種ヲ蒔捨ニスル様ナ物ジャ。迎モ衆人ハ聞ヘヌ者故。イク度モ教ベシ」とか「人ヲ助ケ^{オシメル} 救^{イカキ} ハ譬ハ。衆ノ目大クテハ小前ノ実カ。ムルヤウナ物シヤ。故ニ恵助ルニハ一村ノ下ヘ下^{サガ}リテ。儉約モ勤モ敬モ上タル人ヨリ仁ヲ勤テ。手本ト成ラネハナラヌ」とかいうのは、村の指導者の心得でもあるが、同時に、小前百姓の没落によって手余り地が拡大していけば、村の維持ができなくなってしまうために、彼らの生活を立て直し、また彼らを教え導くことによって、労働の主体たらしめようとするものでも

1) 逆井孝仁『『仁政』から『民富』へ』(週刊朝日百科日本の歴史 第91号所収)を参照。

2) 大藤修「関東農村の荒廃と尊徳仕法」(史料館研究紀要 第14号所収)を参照。

あった。「……小前モ身上趣法立候ハハ針ヲ^(釘カ)打。又出精仕候也 其上ニ金子を打。キビシク取立テ直ス弥仕上又金遣也」というように、小前百姓を取り立てるためには、ただ単に金を与えるだけではなく、厳しい指導が必要とされるのであり、また、その際「上タル者」は「下タル者」の手本となることが要求される。例えば、「言行一致テナケレハ人ガ承知セヌ。金貸スト云テモ正金貸サネバ借ニ来ル人ナシ。道ヲ教ヘテモ。自分行ハねバ。^(オコナウ)聞テモ用ヒ行人ナシ」といわれるように、上に立つ者が小前百姓を指導するためには、自らが今までの生活態度をあらため、積極的に勤労する主体たることが要求され、さらに、彼らが、小前百姓を指導し、人間改造をはかることによって、農村の安定を求めようとするものであったのだ。そこでは、「分度」と「推譲」を行うだけでなく、自ら手本となり、村民を育てる努力も要求されるのである。「長芋ニ成ツタラ長クナレ 唐辛ニ成タラ無情ニ辛クナレ茄子ニ成テカラ瓜ニナロフト云タトテナラルル物歟 貴賤貧富モ如スアカラム迄勤ルノサ」というのは、そうした積極的に勤労にとりくむ主体を求めようとする言葉だと思われる。

しかしながら、荒廃した農村を復興するためには、村落指導者の積極的な取り組みだけでは問題は解決しない。指導をうける側の農民の問題も考える必要があるし、領主の収奪の問題も考える必要がある。従って今後は、平兵衛が行った竈新田村の仕法の実体を明らかにすることによって、幕末期における報徳仕法の問題を明らかにしていきたい。

付記 貴重な史料を閲覧させていただいた小林家に対し、また史料の解説に際し、御教示を賜わった立教大学文学史学科浅見恵氏に対し心から感謝いたします。

4. 凡例

1. 原文は縦書きであるが、それを横書きにあらためた。
1. 本文中の句点は原文通りであり、句読点はつけなかった。
1. 漢字は新字体を用い、変体仮名は現行の平仮名にあらためた。ただし当て字はそのままとした。
1. 振り仮名は、特殊な読み方をしているものもあるのでそのままのこした。また送り仮名は、本文中では小字で送っているものもあるが、すべて本文中に組み入れた。ただし漢文の場合はそのままにした。
1. 本文中には行間に多くの書き込みがあるが、長い場合には、その箇所に1)・2)のよう番号を付して別記した。

5. 史料本文

二宮氏

右の手の箸に力を入れてみよ左の酒の止ムカつのる歟
世の中は用ひやふにて小笠とも草履ともなる竹のかは

二宮氏聞覚書 天保九戊戌九月十一日 十五日迄
相竹松幸内様曾比面家下新田迄の略書

△村助ケノ余荷等ハ天恩国恩ノ為ニ出金スル
事ナレバ必貧而已ヲ助ルト不_レ可_レ思フ。実
ハ我身家ノ為也

△頭モ大根ナレハ尾モ大根也 上ト下ニ
親ト子
△宗門儒仏神色タノ道別ルハ。柄杓ノ水 茶
碗ノ水。杯ノ水。五色ノ器ニ汲カ如シ 本
ハ水也

海川ノ△浪ノ大小モ天ノ自然。我腹ノ中ト同シ 勤
イキ 皆ナルナリ
テ不_レ勤 穀物生物成事

△天ノ変ヲ罪ト云。地ノ変ヲ害ト云フ。天地
災
ト共モニ禍ニ至ル
ワザワイ

△愚人モ智者モ共ニ行フガ大道也

△子トシテ父^{オン}ハ知ラズ。母^{ノ恩ハ知ルナリ}ハ知レル。母ヨリ
知ル法有ル故ニ父^{ノ恩ヲ}ヲ知ル
△今日ノ業^{ワザ}ヲ以テ。正不正ヲ知レハ前後ノ業
ヲ知ル
△恩ハ君ニ向ヘハ忠。親ニ孝トナル。借財ニ
向ヘハ返済トナル也
△強欲^{ツヨキ}剛人^{ジユウ}ニハ柔^{ナド}ヲ以テ示ス。故ニ出入^{ナド}ヲス
ル人ヘハ。必女ニ化テ出ル故ニ。吉原ナド
ニ而遣捨^{ツカヘ}ル。夫ハ相場或ハ山事ト其病ヨリ
災難来リ断絶スル也
△計サツマ芋重^{ツカヘ}キヲ貧強ト分トウハネ返ルニ
譬フ
△三人有時ハ必我師有リ
△十室邑ニハ丘カ如キ者有ン
△三尊ハ。父ト母ト我也。天地人也。相和而
道ト成 万事三度目化テ成就スル也。
△農業モ夫婦モ自然ノ道也。古ハ今ニ至迄同
シ
△貧福ハ一物^{フツツ}ヲ二人ニ呼時ノ名也 貧富一ナ
ルヘシ。勤タテ我身トナル。学タテカラ和
而君子ト成
△今日迄ノ性命^{タモチ}ヲ持シ御礼ニハ。我カ身上差
出シ人ヲ助^{ケル}ル。是迄迷シ濁水汲 ミ ス ツ レ
バ。則清水ト成如シ。井水^{ナルガ}の。何程汲施テ
モ。一夜ノ内ニ本ノ如ク満ル如シ
△大恩¹⁾ノ譬ヘバ。道ヲ行クニ足^{アシ}ヲ路^{フミ}所ノ恩有
ル如ク其外迄モ道有故ニ。平等ノ恩ヲ可
知<sup>悪人モ如斯
恨べからず</sup>ル 宗旨々々モ恩同断
△難²⁾有ト知レバ樂。不足ト思フハ苦ルシミ
△消壺^{ケンツボ}ノ火外ヲ張。フタスル時ハ内ノ火消ル
人<sup>人の本心も
かくのごとし</sup>の本心も
△外堅固^{カマ}ニ構ユレバ必内ヨリ破ル。女<sup>女悪不忠
不孝男子</sup>ヲ不忠
△剛勇ニ而大丈夫外構フ物或ハ^{サザキ}ハビ類ニハ^{タヌ}蛸
ガ手ニテ目ヲフサグ 息不出故ニ口ヲ明其
時喰ル

△鷲^{ワシタマタカ} 鷹ガ子鳥ヲツカミ取テ我子ニ喰ハス
ル。欲深き人モ貧者ノ物ヲツカミ取テ我子
ニ喰ハシ。又ハ名聞奢ニ用ユルハ。禽獸ニ
ヒトシ
△善モ一粒ツツニテハ劫ナシ。合テ相和ス時
大劫ヲナス。惡モ同断。日掛モ一文ツツニ
人ニ而ハ用テ劫少シ。故而大劫ヲト成³⁾ ママ
△我心ヲ澄セバ一切ノ物ノ本が見ヘテ疑ヘ無
シ<sup>どう水も澄せば底まで
みへてうたがいなし</sup>
△泥中に蓮根有故ニ。水上ニ花咲テ淨清也
水上ニ咲ハ泥中ニ根有故也。泥ハ迷ヒ花ハ
悟リト知ル時ハ。迷悟一ツ也。一お知りて
根本の一お行ヘ
△外道ノ人ハ草木^{スル}ト同シ。又禽獸ト同シ。人
道ハ讓^{ママ}ヲ以テ為^{スル}道ト
△上^{ママ}ハ下ヲヘ恵ムニ依テ。下ヨリ貢^{ミツキ}ヲ上⁴⁾ル如
也
△貸借一円無増減也。一ツ也。陰陽一ツ也同
シ
△貸借サイソク不済ハ。左ヲユルセハ右ヨリ
幸来ル也
△偽^{イツワリハカリ テンチ} 計テ田地等隱置銀主ヘ不^レ出サハ山ノ
芋ノツルヲ切テ土ヲカケ置如シ根クサル也
△種^{偽りの}蒔ハ大根種トて人參種ヲ蒔ガ如シ生テ人⁵⁾
モ惡ノ一念ヲヒルガヘセバ直ニ只今善種ト
成ル
△劍術ツカイ。我身ニ切付ラルル時ハ勢心立^{タツガ}
如シ 人モ極困窮して田畑家財売時ハ儉約
ノ心立也 酒肴美味好時ハ。夫丈ノ代ヲ勤^{ソレダケ}
テ用ヘシ。親ノ讓リ物ヲ不^レ可^レ遣也。
△過去未来モ出^引ル息入息因縁ハ善惡業^{ワザ}ノ顯レ
△一度ノ行業天ニ通シ見ヘヌ所ヨリ化而来リ
善惡トナル
△往来行帰ヲ悟レハ。変化善惡ヲ知ル
△奪心禽獸草木也。讓^{天道}ル心人道ナリ

1) 天恩国恩主親ノ

2) 今の世の中も身の上も

3) 大勢ナレバ

4) ヘ奉るなり

5) ハイテアラハルル

△千石ノ邑。百軒家。平キンシテ十石ト成
九石以下ハ下品 十石中品
 十一石上品意ヘシ

△髪結カミソリヲトグハ人ヲ助ル道也。工人
 刃物トクモ同シ。人の道ヲ修行スルハ。世
 界ノ為ニ学スル也
マナブ
 6)
 △善ヲ上ケ惡ヲバ隠ス故ニ納ル。惡ヲ引出テ
 ハ治マラス也

△塵芥馬フン糞^{コヤシ}ト成時ハ。皆物ノ終リナリ。
 死ナリ。成仏ナリ。変化シテ五穀トナル。
 五穀変化して人となる。聖賢仏祖モ勤マテ
 終玉ヘテ。化シテ今ノ神仏也。銘々モ貧富
 モ貴賤モ。夫々勤マテ終テ後。変化シテ子
 孫相続永久ノ姿トアラハル

△波ノ音東西ニ片寄リ聞ル時。天氣ノ善惡ア
 ルヲ知ル。是天氣ノ澄ル方ヨリ聞ユル。器
 皿ノ水モスメル方ヘ日ノ移ル加シ。(如カ)夕暮少
 日見ユレハ明日ノ日和ヨシアシヲ知ル。大
 卅日ニ少明ナレハ来年ヨシ如斯

△食アレバ人有。水アレバ魚有。米ガ先ニ生
 シテ。人カ後ニ生ス。娘ノナイ所ニハ紅白
 粉ハナイ

△人ハ法水ハ土手 水海ヘ入ハ終リ死ナリ

△トアオリ口両方ヨリミチンヲ吹合如シ 何
 レヨリモ少シ脇ヘ寄ハヨシ

午返
 光明 光明ヘン照 借用返済

△隠居ハ安樂シテ子ニ仕ヘ主人始終不知ハ又
 同

△餅ヲ切テ薙ノアト付。上ハ平也 是陰陽ナ
 リ

△人死シテ葬ム。ツズ二三月過テ堀出セハ骨ノミ
 残ル。五年過テモ。頭骨スネノ骨ハ残ル
 也。先祖ノ骨折其種ハクチヌ也。骨オラズ
 ニモウケタル身上ハ。肉ナル故ニ変化スル
ツブルト潰ルル。今生ノ骨折子孫ヘ続故ニ。食
 欲ハ女酒色々変化ス也

△鶏モ頭カ先ニ出キル。世界ハ山カ先ニ成

△五色モ白カ本体也 今日ノ行業カ明日ノ形
 ト現ス アラハレテハ五色共ニ本ト成 其
 位ニ素スナリ

△心持ノ苦シキハ恩ヲ失フ也ト可レ知

△天恩ヲ受テ地ニ施シ親ノ恩受テ子孫ニ施^{種々}

△御恩沢行住座臥不レ可レ忘事

△貧福貴賤親子ナル事ヲ悟リて行ヘ

△一切万物共恩有方ヘ返ス事忠孝ノ道也

△世界ハ^{ラウ}牢中ノ如シ 行ク所ナシ。牢法ヲ守
(将カ)ノ外ナシ。天子那軍様牢名主。三道モ同
 断。天地間ニ居テ天地ノ物ヲ食フ 自分ノ
 物ナシ

△人道ノ裁許ハ残所アリ。故ニ能ク覚ぬとあ
判
 8)ふない。故ニ天道ノ裁許ニカカル時ハ無^判
 残所。泣てもだめだ元いわ帰れぬ也

△舟渡ノ船頭竿ヲサシ。ジットコラユル事ヲ
可レ考
 9)

△カンナガ。齒ガカケテハ板カムラニ成ル。

上タル人道ガチカヘ下ガ不レ治。下々が
 家業におこたれハ。家がつぶれる。

△返事ガオソクハ。イヤト思召

戊(天保9年)春ノ御示写メ共
 △世人花ヲ見テウラヤムハ。根ノ有カ故ト不
 知故ナリ

△富貴ノ根本ハ貧乏人也

△夫食ナキ故百姓ヲスル。本手金ナキ故ニ商
 売スルト思ヘ。

△自分一人ノ食ヲ求ルハ。畜生ノ心也。人ハ
 恩ヲ報ズル為ニ家業を為がよい。畜生ノ心
 ヲ嫌フカ人間だぞ

△猿ニ芸ヲ習スルニ食ヲ以ス 小人ニ道ヲ教
 ルモ如斯

△天下ノ本ハ民カ根ナル事

△法ヲトレバ低^{マモレ}が本ナリ

7) 夫ヲまくれ幸といふ

8) 天道ハ正直ノ鏡。う之毛程もゑこハナヘ

9) 大工ノさけ墨一筋で。三十三間堂も真直ニ立
 テ居ル。身ヲ治メ家ヲ治ルさしがねだ。

△下手那基人ニ駒ヲ^{ナラヘテ}並 モロウ事 金銀貸借

スルモヘタゴノコトシ

△煙売道中 無^(益カ)尽ノ事

△行業ハ明日之事ヲ今日勤ル事^{食物ハ昨日ノヲ用ル事}

△泥ノ中蓮。水ノ上ニ清浄ノ花咲クカ。泥ノ

中ニ根有カ故也

△俟約ハ自分勤テ民ニ施事¹⁰⁾

△蠅ノ糊ヲナメ尽カ如シ 人ノ業ナキハ蠅ノ

如シ

△上戸ノ水ハ下ヨリ上ル 是天ノ氣ノ押込故 一切如斯

△金銀浮宝世界ヲグルグル置替ル而^{ソウ}已増減ナシ

△五穀ヲ作出スハ誠ニ世界ノ宝也。フユルノミ

△業ト欲トノ差別有。寒暑^{寒暑} 舌味欲^{舌味欲} 飲食^{飲食} 身業ハ業

△俟約ト吝嗇ノ差別

△身上^{増減} 家督ヲ先ニ立難有シト行業勤ル者ハ道^{家督ヲ後ニ引連テ莫加不知酒食奢不仁}

△身上ハ十呂盤ノ如シ。業徳ニテ暮シ不足ノ時^{クセヨ}ハ。帰一倍一戻ス^セ

△身上貧乏ニ相成候時ハ。先祖ノ昔ヘ立帰^{ルベシ}事。国常立ノ尊ノ時何モナシ。身上休ミノ事¹²⁾ 又ハ本分シテ身上別物ニスル事¹³⁾

△桐木^{御朱印箱ニ成} 又ハ下駄ニモ成^{小笠トモ成} 竹子皮^{小笠トモ成} 又ハ下駄ニモ成^{舁履トモ成}

△釈迦ニ提婆。大子ニ森哉勤俟約ニ。酒食奢^{モリヤ}

△恵ヲ掛タヲ恩ヲカブセテ果ハ潰ス人ハ^{メグミ}カボチ^{ツブス}ノ^{ルノゴ}トシ

△物ヲクレクレ恵ンデ共潰ルハ。糞ニコヤシ

ヲ掛ルカ如シ。仕舞ハ枯ル也

△報徳年賦ハ根ニ糞ヲスルニ同シ借テ吉貸テ^{コヤシ}

10) 聖人仏行の見事ナルハ。腹の中ニ根有ルカ故也。根ハ真也。本来ノ自性天真仏トモ云フ

11) 丁簡違スルナ帰一倍戻ストハ。百両ノ暮ヲ。五十両でクラスノダ。

12) 無物ノ世界

13) 貧福者一切何もなし。

14) 然ルヲ今泰平二百余年ノ今日只今。世界万物満備ル此時節。百姓は鉄ヲカリカマヲ借テモ其日ハ送れべし

吉

△天福ヲ降恵。地ハ恵ヲ受テ万物ヲ養育ス。

人ハ天地ニ勤ルカ道

△致方無^{田畑}レ之時ハ 身上 報徳ヘ加入ニ上ケル身上五七年休ミ事

△御大名ハ古ヘ田畑ノ番人ノ警示之事

△山^{コケノ}ノ下タレ大河ト成カ如シ。故ニ一切報徳可知。

△人界ハ逆^{ギヤ}ク也。開發起^{フコスモ}ハ一度ハ逆ク。又一^{順ナリ。}度ハ随^{マクハ}ふ畑起ハ逆。種ハ順。熟シテ蔵ニ入ルハ逆。春又種蒔ハ順也。昼夜モ順逆。水

横ニ堰作順逆也。ニツ氣ニ入者ハ倭人也

△天無録ノ物ヲ不^レ生。子供多キモ天録也。故勤ム

△井戸水不^レ汲時ハ。ボウフラ虫出ルカ如ク。

金銀ヲ無理ニ満テ置ト。其子カ遣^{ボウフリ}ムシノ^{トシ}

△虫ハ春秋ノ命。五穀モ六七ケ月ノ命 人ハ六十年。天地ノ命無量ナル事

△五十年丹情ノ葛ノ根ヲ堀。葛ニ成テ見ヨ根ハ蔵也

△正宗ノ刀ハ古シヘノ金ニ譬レハ。式百兩余ノ骨折カ有故ニ。今百兩ノ直打有ル故ニ宝也。直打一盃ノ物ハ宝ニアラズ。奉公人モ直打一盃ノ人ハ不^レ宝ニアラ。身上モ分限^{クラシモ}ヨリヒサリタルヲ宝トス

△万物万事法ヨリ前ヲ知ルヲ要トス。法ノ本ハ無欲

△草変シテ糞ト成。糞変シテ米ト成。米か変テ人ノ命ト成。人か変テ何ニ成ル。恥カシイ者ニナルナ

△貧者カ天下ノ万物ヲ生ズ。故ニ福者ノ為ニハ貧者カ福ノ神也。売テハ聴シテクレ。買テハ聴テクレ借テハ聴テ返也。田畑モ売テハ作ツてくれてふやしてくれる。

△貸^{亦福者}テハ取。売テハ取。又取亦取取尽スト。田畑ノ作人カ無ヒ故ニ。其貧乏人ニ作ラセ

ル故ニ。作徳モ不_レ取。又取_レズ取_レズ。

果ハ自分モ潰ル

△善惡邪正遠近モ手前勝手ノ名也 向カラモ。此方カラモ遠シ

△報徳金ハ返済スルテハナイ。我子ヲ姫ニ遣ルノジヤ。又其子縁ニ付。夫カラ夫ヘ子カ聴テ。難_レ決人ヲ助ル。故ニ。報徳金加入スルハ種ヲ蒔ノジヤ。多ク蒔ハ多実ル。夫カラ夫ヘ助ケ助ケ行ク。故ニ譬ハ人ノ田地ヘ種モ蒔カズ。耕作モスズシテ。後ニハ皆。我方ヘ来ル故。独デニ身上カ聴ルノジヤ。

△此度自分ノ田地ヲ質ニ入。報徳善種金拝借而。小前ヲ助ケ。自分ハ其田値余分ノ俟約ヲ用ヒ。我身上アトヘヒサリテ五ヶ年暮セバ自分モ無事ニ而。小前ノ身上ヲ立直ス也。然レ共後ノ世話ヲセネバ。種ヲ蒔捨ニスル様ナ物ジャ。逆モ衆人ハ聞ヘヌ者故。イク度モ教ベシ

△人ニ施シテ自分ハ俟約シ。古ルキ物ヲ着_テモ。人カ悪シクハ云ハヌ物シヤ。糞^{コヤシ}ハ穢^{キタナキ}物ナレ共。作物多^{ワフタツクルト}蒔ト。其穢糞ガホシク成如シ

△雪潰^{ツブレ}ノ家根ヘ上リ。木挺^{チヨ}以テ起サントスル如ク。(上^{タル人ハ}事也。石ノ上ニ上リテ其石ヲ木挺ヲ持テオコスニヒトシ 上デハアフナシ。一国一村起スニハ。上ニ立候仁ハ貧人ヨリ下^{サガ}リテ可^{オコス}起。

△人ヲ助ケ^{オシユル}救^{イカキ}ハ譬ハ。衆^{イカキ}目大クテハ小前ノ実カ。ムルヤウナ物シヤ。故ニ恵助ルニハ一村ノ下ヘ下^{サガ}リテ。俟約モ勤モ敬モ上タル人ヨリ仁ヲ勤テ。手本ト成ラネハナラス

△五穀モ金カケテ糞スルト多ク実ノル^(種カ)金モ人ニ貸シ離スト利カ聴テ来ル

△髮結。下^ツいリト親方トスルト痛ミニ違ヒアルハ心深切誠ノ心奥ニ有ト無キトノ違也

△兄弟モ兄ガ上下着スト弟真似^{フトムル}スル。一切上タル人ノ真似スル也

△児共集テ榎ノ実落ニ自然ト四公六民有事

△天命之謂性率性之謂_レ道_レ修道之謂教

大工木挽下ケ振性ニ率曲金

△木挽木末口ヨリ墨ヲ引本口ニ至先後本末^背目^目譬

△天道ハ万物恵生々己而。地道受テ生シ養育ス無心無念ノ本体也

△鳥獸草木ハ天地ヨリ受タル性ニ順ノミ唯先ヘ先ヘ立。恩ト冥加ヲ知ラス 然共親子ノ愛情自然有

△人道ハ天地万物ノ御恩冥加ヲ知_テ讓_ヲ以_テ為_レ道。治レル国ノタメシヲ何ニ見ン畔ヲユツレル道ナカリセバ ユツレハ我ヲヒサルノ外ナシ 俟約也

△身上起_ニ有_ル法自他天理自利ノ差別

△備後^{タタミ}上ノ二荒地有事

△忠孝ヲ離レテハ的ナキ事

△人道ニ私アレハ天道ニ幸ナシ

△福ハ恵ム貧ハ受テ勤ム

△身上万朝屋タ 昼夜陰陽有事

△東照宮万死十八度之事 依之十八檀林

△釈尊八千度往来スト有 是身ヲ捨死ヲ極メ給歟

△祖師ノ隱徳ヲ種ニ自分出世仕上ル 春植テ秋実ノルヒ田植捨置テ。来年ノ糞草苳

△綺麗^{キレイ}成雑巾ヲ以テ穢^{キタ}ナキ板之間ヲフクガ如シ。聖人ノ道ヲ以小人ヲ教ヘ導也是雑巾也

△カケタ髪スリデハ痛ム 節^{シンセツ}ノ齒ノカケタテハユカヌ也 カンナノ齒ノカケタテハ板ガムラニケツレル。上ニ立人之事也

△釈迦ト云桶ヘ米ヲ入レテ搔廻タレバ一切經カ出タ孔子ト云桶ヘ米ヲ入レテ搔廻シタレバ儒書カ出タル也

△一切ノ書物ハ聖人ノ勤行ノ業ヲ板木ニオシタル物也 書物ハ道ヲ勤ラレシ事ヲ後ニ書物本トナリシ也 敵打有テ後ニ其本出来タル物也

△儒道モ今時ハ皆猷立而己也 感要ノ客ナシ 仏道モ今ハ皆後ノ掛払而己ナリ 謂心ハ行

ヒノ正業ナキ故用ニ不_レ立也
 △盗人聞キ所ニテ盗取 日昼日光ノ前ニ而遣
 ぶ故ニ天道ノ御帳面ニ付也
 △一村一家ノ富家ハ譬ハ。海中ニ立石ノ如シ
 汐カ引故高ク見ユル也 船モ魚モ近ク寄事
 不能如シ 夫故次第ニ貧乏ニ成事
 △百姓ノ種糞モ百日ノ後ヲ計。離ル故ニヒサ
 ルノ理也。故ニ他人ノ為ニ遣リ施スハ皆ヒ
 サル意是隠徳也 商人ノ仕入ニ離スハ自分
 為故同理ニシテ不_レ当也 安売ハ向ノ人ノ
 為故ヒサルノ理ナリ
 △川上ヘ投クレバ一度ハ我方ヘ来ル如ク。何
 事モ上ヘ上クレバ其徳報来ル故ニ万事恩有
 方ヘ返スノ道也 故ニ主祖同断
 △井水ノ汲程出ルカ如シ
 △二百年ノ昔シ他人ノ植シ木ヲ切テ要用ニ用
 今又苗木ヲ植テ置二百年ノ後ヘ譲ルヘシ
 △計ノ分銅ヲ抓_{ツカ}ンテ居ル事 サツマ芋
 △計分銅貧ヲ重クシテハネ返ル事
 △鍛鎌ノ音ハ天下泰平ノ鈴ノ音
 △業ヲ知ル者ハ其理ヲ不_レ知 其理ヲ知ル者
 ハ其業ヲ不_レ知
 △儒ハ玄関釈法ハ奥也故ニ祈禱ノ利益有事
 △人生レテ精進不_レ為ハ活花ノ根ナキカ如シ
 △法ノ上ニ立 米搗ノ裸ニ成テツキ始ル是法
 ノ上立也
 △明德ニ止テ後ニ民フクス 是民親ム也
 △^{イヤツク}苟モ道ヲ以セザル時ハ金城湯池ノ固有ト
 イヘ共 禍^{ワザワイ}必蕭牆ノ内ヨリ起ル
 △空中生住物ハ人間禽獸共男女合^{ケン}人ナリ
 地ニ生ル物ハ種一ツノ中ニ男女アリ
 △古ノ小判三両六ト ^{六枚ニ而}六六三六 ^{一石ハ}壹分金九分 ^{四九}
^{三十六也}
^{四季也}
 △田壹反三百六十坪 ^{壹升毛粳三石六斗ニ而一石ハ}
^{斗是壹人夫持也一日五合当ナリ}
 今ハ壹反三百坪也 ^{壹升毛粳三石也六合スリニ而一石}
^(ますカ)
 △壹升^ハ ^{男五合} ^{女五合} 合壹人也
 △天道通りハ禽獸草木輪廻之通 人道ハ輪廻
 ヲ止テ仏界ニ至ノ法 以_レ譲_ヲ為_レ道_ト

△癖馬モ乗人ニ寄^{モル} 人モ同事
 △富ノ真似ハ難_レ仕 貧ノ真似ハ安シ
 △善惡不二。万事ニツテ一ツ。二本譬ヘ。陰
 陽ニ而立事
 △商人安売 二三品元直売之事
 △欲界。色界。無色界是ハ形ナキ願 迷悟ハ
 無色界ニ有
 △御家老。名主ト同道ヲ行ノ本之事
 △権兵衛が種まきや烏がほじくる^{(ニ宮云トイセ原}
^{ヨリ専来ル也}
 何事置ても追ずハナルまい
 △小金カ出来ルト上ヲ見初ル 夫ヨリ段々衣
 類諸道具 髪 食 家作唐物ト奢リ夫ヨリ
 家業不情 遊興 色欲ト次第次第ニ貧乏ニ
 成凶作カ来ルト人先ヘ飢己カ勝手己^イ而好。
 利欲強ク人ハ心柄ジャト云テ小金カ聴ル程
 人ヲ見下シ私欲強^(殖カ)
 △又貧乏人ハ己カ不情不始末ハ不云人ノ富貴
 ヲ恨ミ夫カラ惡工ミ次第ニ募リ或ハ押借打
 クワシト成ル 其小言カ止ムト色カ悪ク成
 弥々飢ニ及ノジヤ 其時ニ後悔シテモ仕様
 カナイ 本心ニ立帰リて家業ノ外ナシ
 △長者ノ万燈貧ノ一燈 日掛
 △夕立恵^{善田畑耕而待時ハ其恵ミ甚シ吉}
^{惡不耕而置時ハ舛生茂リ返ツテ凶ト成如シ}
 春雨の別て夫とハ降らねとも受ル草木の
 己カサマサマ
 故隠徳勤行ナクシテ。タマタマ幸ノ来ルハ
 帰テ害トナリ
 △主人遊興色欲。目覚シ儉約ス^(親カ) 新類安心ス
 ルト云ヲ是カ則次第ニ家ノ衰ル也トノ示シ
 △釈迦ト云桶ヘ米ヲ入レテカキマハシタラー
 切経出シ也孔子ト云桶ヘ米ヲ入テカキマハ
 シタレハ儒書カ出タル也
 △一切ノ書物聖人ノ勤業ヲオシタル物也
 △万草一切心経ヲ誦読シテ居ル也
 天地や無言ノ業クリカエシ
 △^天
^地 故ニ人ハ万物ノ長也天地人也
 △世ノ中にねた程楽ハナケレ共浮世ノハカガ

起テ働ク

働カデ起テ居ル身ノ氣樂サヨ寝テモ阿方ノ物思ふ也

亥(天保十年)二月廿八日伊セ伊ノ咄シ

△三万石ノ御大名八万両ノ借財之事 十呂盤枕ニ寝タジャ 一切ガ。ケタカ違タノシヤ心ノケタ違歟

大飢饉年

寛永十九年壬午年ヨリ三十年経テ

延宝三乙卯年ヨリ五十七年経テ

享保十七壬子年ヨリ五十一年経テ

天明三癸卯年ヨリ

天保七丙申年

天保八酉大飢饉ト相場

天保十己亥三月廿六日着四月廿四日出立

帰趣 野州芳賀郡桜町御陣屋聞書

△御大名之借財^{スレ者}ノ有ハ。自分之録^(録カ)を喰テ。自分^{スレ者}給金出シ。其上テ金主ノ番頭ヲ勤ルカ如シ。下々モ如斯同断。町人百姓モ借財スルト。無給ニ而金主ノ奉公ヲ勤メ。大骨折テ金持ノ株ヲ殖シテヤル也

▷金銀ヲ貸テモ向ノ為ニならぬハ貸方ノ悪シキ也 又他ノ金借リテ為ニならぬハ借方無調法也

△開發モ。金銀多ク掛テ起ルハ。誠ノ起ルニアラズ 少分金ニ而。くり返シ開發スルカ誠ニ起ル也

△人ヲ助ルニモ。施ニモ。百姓ノ仕業助合モ。其時節カ有也。糞ヲコボシテモ。時節ニスレハ草生ル如シ 惣シテ時節ノ違ふハ。

八月頃苗代スルカ如シ ^{助合も}同断

△木ノ根ヲ切ル時。上ノ真葉ヨリ枯ル也。又根ニ糞スル時上ノ真葉のびるか如シ。又松の高木も根ニ缺当ルト真ノ若木ヒビイタム。故ニ百姓カ枯ルト御上カイタム也

△浅草観音様ノ縁ヲ廻リ廻リ人ヲ尋ヌル 一日尋ネテ其人ニ不^レ合観音様へ拝シテ居ルト向ノ人廻リテ来テ出合也 借財モヤルマ

イヤルマイト云テ居ルカラ貸方ハ取ル取ル云カラ則^レ不^レ取 此所勘考可仕 是ヲ天命ヲ知ル共云 道ヲ知ルトモ云

△乞食マメ蔵ノ類ヒ一代切ノ者ト同シ様ニ心得ルカラ貧乏離レヌ也 万代相続ノ大名。又万代^{そろそろ}ノ町人百姓ハ心ヲ尽シテ相続セネハナラヌ。是乃天理自然ト云フハ。春苗代シ又種ヲ植テ置ケハ智恵イラスニ相続スル也能ク悟リ玉へ

△新大名ニ成者サヘ有ルニ。持来リノ高ヲ守ハ安き事也 豊凶ハ天ニ有リ 故ニ人力ノ及所ニ非ス。故ニ人道ハ其時ニ随ひ引下ケテ暮シヲ付ル計リ也。フンハツシ^テ勤^心行ヒ度キ者也

△馬ノ麦ヲ喰ふたハ馬士ノ咎也 下々ノ風俗悪キハ上役人ノトガ也

△菜大根ノトウヲツムハ先納トルカ如シ 来年ノ飢也

△大借ハ利斗送りテ置 大罪モ如斯勤ムル也

△生得たる所ノ業ヲ以ス 牛馬犬猫ノ行

△樂ノ世界ト知ツテ行フ人ノ所ヘハ幸ヒ集ル。苦ノ世界ト云テ暮人ノ所ヘハ害ヒ来ル。犬ノ真似スレハ則犬也畜類也。人ハ人ノ道有。牛馬ハ其道ヲ行フ。其位ニ素シテ行フ。外ニ道ナシ

△百姓ノ田畑ヘ草生シタルも則国ノ乱タルモ同シ

△水ヲ汲置ハ自然とボウフラ虫カ出来ルガ如シ改心シテ道ヲ立テ置ハ自然と家治ル理ナリ上ハ国ヲ治ムヘシ 民ハ農ヲ勤ムヘシ

△煤払家根カヘニハ主人も外ヘ出ル

身上改革立直シモ無^レ扨時ハ奉公成共何成共勤マル物 独リモ一家中モ同シ 下リテ可勤行事ナリ 其儘置時ハ天道カラ被成^{来カ}

△開發理倍道ヲ行ハ 盜よりモ早ヒ

△種ノ嘶斗テハ面白ミカ少イ 其实ヲ取テ食フト面白成ル

△肴ノ頭ヲ犬ニヤルノヤラヌノト云ウチニ犬

カ喰如し 道決定シテ早行カ先也 三年モ
立ト見ヘルカラ進ム

△道ハ形カ出来ルト行フ斗也 改心^{法ハ}勤行肝要
也 ロテ云斗テハ不成ラ 自ラ行テ家政ヲ
勤ムベシ

△百万偏ノ珠数ヘ黑白ノ印ヲ付ルガ如シ 廻
リ来ルナリ 此方ノススムニアラズ 一切
天^{自然の}御恩ノメグリ来ル^{徳ヲ備也}

小田原公 直ナルモ曲レルモ又我カラノアト
恥カシキ雪ノ中道

同 治レル国ノタメシヲ何ニ見ン畔ヲ譲レ
ル道ナカリセハ

水戸公 木隠レノ花ノアリカヲ尋ツツ我ニ教
ヘヨ谷ノ鶯

△一切万物生シテ止事なし 天地と共ニ行道
スル也 種ノ世界ヨリハ死ト云 草ノ世界
ヨリハ生ト云 実法種同断

△同シ日月ノ照同シ雨露ノ恵ミニ而甘キ辛キ
色々種々品々

△公方様モスネ一本腕一本店□モ出来ズ店借
ぶも由断ならず 故ハ日本ノ人ヲ養ハネハ
ならず

△大キナル心ヲ以見る事専用也 小サキ心以
見る事専用也

△種ヲ蒔テ蔓^{フル}ヲ作レハカボチャカ出来ルワラ
ヲ作レハ米カ実法 一切実ヲ取ニハ草ヲ作
也 変化シテ実種ト成也

△今ノ金持ハ蛭^{ヒル}ヤ蛇^{アブ}ノ如シ 人ノ足ノ血ヲ吸
テ自分勝手スル

△人ヲツブレ次第ニスルト自分ヘ集ルナレ共
持^{タモテ}カタシ 人ノツブレヌ先ニ取立ルカ則報
徳也 可考

式万石下館石川近江守様

三万石烏山太久保佐渡守様 ^{御家老 太久保金吾様}

四千石桜町宇津帆之助様 ^{江戸御屋敷 西ノ久保八幡前}

五百石斎藤桑太様知行所野州辻村其外^{名主}
藤蔵

△芋種ヲ策ニ入タルヲコボスト立有寝ル有
マグレ幸ノ咄し

△平均土台極レハ不作ナシ 幸ヒヲ内ヘ不入
レハ豊凶ナシ 海中水策ヲマケルカー人前
也 此水ヲ桶ヘ入山ヘ持行カラ夫切ノ徳分
也 海水一味ノ理難有し

△一切ノ物一切ノ人モ我モ天下ノ物也 是ヲ
借りテ一切ヲ用ユルカ世界ノ有姿也 此味
ヒ深ク可考 大神宮ノ節ハ何もナシ 故ニ
大神宮ノ百年分^(乃カ)仕業今ノ人一日ニモ直ニ出
来ル也 可¹⁵⁾味し

△今人ノ丹精カ沢山有故シヤ。海中ニテオホ
ルルカ如シ

△死テ持行ク物ナシ 欲深キハ遠方ニ而石ヤ
鉄ヲ買フカ如シ¹⁶⁾

△士農工商出家山伏一切道筋出来テ有也 故
ハ人ノ作タル家ニ入人ノ開発仕テ有田畑ヲ
作人ノ造シ衣類ヲ着余リ自由過ルカラ迷也

△日本ト云モ九尺二間ノ店借モ同シ事也

△古ヘ御先祖ノ御取高二万石ニ立帰リ法ヲ立
改心ダニスレハ万事足ル也

△男ハ女ノ為女ハ男ノ為 貧ハ福ノ為富ハ貧
為水ハヒクキニ行人モヒクキ方ヘ財ハ行□
□低故銭ヲ取高キ方ハ借財トナル 何レヒ
クキ形富トナル

△有財貧而后無財貧
無財富而后有財富

△天徳利倍ノ六拾年モ則六十度ヒト云事也

△家法ヲ能立一切損^(不カ)ふ為法則譬ハ火消坪火ノ
如シ 両便絶ルカ如シ故子孫ナシ 又ハ子
孫金遣出し又ハ女子有テ養子相続ハマダヨ
シ自分男子ハ悪しし

△地藏尊大地也是レ空即是色也 地藏開帳ハ
午房人參大根其外諸色則尊体也 土蔵カラ

15) 今の世の中に苦しむは

16) 迷の夜ヲ明けて見れハ。死でもモチ行物なし
子供ヘ財宝多くゆづるは慈悲に似て無慈悲なり
おしくなく宝をゆづる家の子に。おちぶれざる
は少なりけり

諸品出スカ如シ

△喰ふと着るとの限りを見付ルカ則道ノ修行也

△世界宝^{堀抜戸}ハ井ノ水ヲ汲ガ如し。天命清水尽ル¹⁷⁾事ナシ。増減モ身分モ過福モ天命成事自知□べし

△儲テモ手一杯。千石モ手一杯。万石モ手一杯ナリ。人ヲ助ル心ヨリノ家政ハ天下ニ満¹⁸⁾る。自分智恵ノ儲ノ過福ニハ。ツイエノ損^{が付添て}立也。天命ノ儲福ニハ限りナシ。故自他ノ能^{合ノ}ヲ道ト云。是手ヲ握ると。ひらくトノニツナリ可^レ考

△鳥獸虫魚ニハ君臣ノ道ナシ 田畑開ケテ後^{世界}々モ。モツレモツレテ君臣五常五倫の道ヲ^{ル故ニ}御立被成もの也。是極樂とちごくの境のほんくいとしれハよし

△人ヲ助ル間カ樂シミノ風味あり 助ケテ仕舞ハ済シ也

有無阿弥陀仏

剋	陰	春彼岸	三世限なし
身	無	渡舟	我方杭なり
卑	北	秋彼岸	貧福境なし ^{サカイ}
死			分限ノ位境なり
往			貧富
樂			引返し図

△男女色情自然也 百姓業自然也 是大道也

△奉ル差上ル遺ル捨ル施スクレル 取欲^(遺カ)

△茶碗カシグ日本ノ譬也 増減ノ事^(円カ)

△貸借貧富一図平均道成事^{ルハ}

△因縁熟事在^{ルハ}遲速。桃栗三年柿八年

△君子節侯為己不為人

小人吝惜為人不為己 吝嗇

△御為筋御為筋ト云テ身欲ニカスガイヲ打^ル止

勤メ出世ス
ルネイ人也

△湯ノ煮立時鍋ノ蓋押ヘル如シ 下火引事不

知

△座敷ニ有火鉢ニツマツクハ見ヘヌ故ナリ

火鉢罪ヲ当テルニハ不有 其レノ見ヘヌ位テハ行先淵ニ落る也

△松ノ木風答ル故音強ク打る也 柳風

△年々豊凶在天不在人

土地貧福在人不在天

△生真木も干タル真木トまぜまぜたけば可也にもゆるもの也

堪忍の袋をくびに掛置て破たら縫破たら縫信せずバせめて事に□られかしよこれぬ物ハ洗ワれもせず

△土が生きて居て土の吞込タ事に分らぬ事なし

青黄赤白黒 五味

△鉢植の事大名町人分限の鉢也

△観音ノ身ヲ現す

△種か苗ト成テ米ハ其儘有

△腹の中癩虫 世界ノ人も天地ノ虫ノ如し

△木の目一年に一目ツツ育 木ハ一年一息也堀ヌキノ井ハ土の目ヲツキぬく也 目はも息の如し

△椎茸に成て株を知らす

しやうちゅうニ成て酒ノ粕を知らす^{三世如斯}

△烏ハ烏の羽ねを案山子トス 外のものハぼん字故よめぬ 人も腕なと□しに差置ハうなぎとハ違ふ恐る也

△縄わらをつくハ縄の命 蛇の命ハ蛙人の命ハ米 へひ蛙ヲ吞に非ス 蛙か蛙ヲ吞ム也

△具一切功德慈眼視衆生福寿海無量是^(聚カ)

故応頂礼 一反作レハ一反ノ穀上ル

△曾子曰堂々乎張也難ニ与^ニ並^ニ為^レ仁^ヲ矣

△ほのぼのと生れ出テ明徳明らかなるヲ譬ふうらの朝霧ニ世の中の習ひホシヤオシヤノ就きて 嶋隠行舟^{おしそ} 其業其利ヲ知ら^{思ふ}す上中下人知らず死ぬるハ^{おしそ} 村雨の^{思ふ}

17) 自然也。身ニ勤め勤めて

18) ラ立テ。儲ル財宝ハ。

露もまたひぬ真木の葉に霧立登る秋の夕暮
万事足らぬ中に霧立登る

○聖賢書 経文ヲ知ッテ読而已ハ差当て書ヲ
見が如し 又座敷ニ居て帳面ヲ読居るか如
し俵を見せると不知正業ヲ見ると恐れ疑ふ
者也

△行舟の鼻モ曲すに金銀ヲ以^{或ハ施}貸助ルハ金出シ
タ者モユカズ 助ケラレタル者モユカズ
誠ニ助ケ助カルノハ其本人暮下り其上又譲
事ヲ知り得て人斗ヲ助ル心なきウチハ助テ
モ必^{袖子}為にならず故人助事大切也 可心得也
△いつわりて契りし人ハにくからていつわり

知らぬ身をそうらむる

^{古今}思へとも思ワぬ人ハにくからて思はれぬ身

のうらめしき哉

^{百人一首}わすらるる身をハ思ワすちかいてし人の命
のおしくも有かな

^{二宮氏}思ふまいおもえバ人の思ふらんたかいの心
まよいまとわせ

△稗時^{ツレ}て捨テ置て逃よふとするハあやまりな
り其取上^{ツレ}ま^{ツレ}とふて仕舞。其上能種ヲ今日ヨ
リ蒔へし

△蜘蛛^{クワ}や糞^{フン}ハ人がいやかる。此方の思ひ^{スツル}ヲ捨
ると向ハサメル也。蔵が有家株^{ツレ}カ有から向
相手承知せぬ也 思ふまい思えハ人の思
ふらん互の心まよいまとワセ

△現在松ナレハ二百年過去モ松の実 此先幾
千歳も松也 根カ松木カ梅枝ハ柿にハなり
ませぬ 此世界ハ唯が独尊己身の弥陀我か
ら止メレハ止ミます。因果ノ利倍^ベデ見せて
ある通り同じ事を勤るが道。喰てハ喰ふ
事。去年も喰今年も喰。同事ヲ勤ルガ天下
泰平去年も百姓今年も来年も百姓。是が目
出度也 現在過去未来東西南北天地ノ書也
三世三六^チ百八十年生れ子カ乳ヲ吞ミ末期も
水ヲ吞ム 夫で目出度終る也

△道ノ決定ハ先小前目下ノ者を我が迷ハセタ
ト限りてあやまると夫カ平等一切即心成仏

△死するともあら死するとも死するとも御恩
になり御恩になり君を思へは〔死にともな
あら死にともな死にともな御恩になりし君
を思へば

鳥の中の驚ましり

工夫工夫尻かし尻かし

△正直ハ一旦の依怙ニあらずといへとも終ニ
ハ無借□□

△天下ノ人鳥獸虫魚ニ至^{トクト}迄得度不為事なし

△己ヲ治テ以百姓ヲ安ンズ。堯舜^夫も是猶ヤメ
リ

△百石持暮引下テ五拾石ニシテ譲ルハ仁也

百貳石ニシテ余リヲ譲るハ 智也

忠孝なれハ半減にして譲る時ハ先祖の恩ヲ

知る故ニ損する事なし

△藤の蔓ノ長きも逆中ニ鎌ノ先カ当ルト。其
^(途カ)先^{サキ}枯る也 代々続ク身上モ。奢ノ鎌当る
と。子孫枯る也

△七八百年モ続テ出来た身上ヲ。あしく仕タ
カラ趣法ヲ立テ。又七八百年もかかりて元
ノ如くセルト思定テ改心すへし。然上ハ今
日改而古へ歸り勤行スレバ。立直る事思の外
早し

△論語曰カラヲキリキリ斧ノ元鎌ノ元ノ事也

△茶碗ノひらから古事發ルカ如シ万事

△ココハト云時ニ至レハ深く染入し事出ル故
熟事大切也

^{古歌}ツツメトモ人ノ心ノヨシアシハカキリノ
時ニアラワレニケリ

△内に誠アレハ色外にアラハル 冬井水暖カ
如し

△凶年ニ腹ヘルハ世界ノ生氣薄き故ニ。常々
吞^{ノミ}吐息天地ノ息ニ。勢氣ヨワキ故ニ腹ヘル
也 身上下り坂ニ成テ普請スルモ同じ ジ
ンノオトロヘタル人女色ヲ好ムモ同じ

△玉ノ止まり膝ノ上ノ豆種ノ如し

△田ヲ植ルコグ草ヲ取豆ヲコグ

善惡両方へ引故ニ切ルル也皆我慢也

△一切ノ理ハ押込押込尽スト善悪カ能知る
也 宗旨宗旨宗旨士々々々農々々々工々々
々商々々々僧々々々紅々々々白粉白粉白粉
喰々々々不喰不喰不喰と能々押込押込極メ
極メ極メ見て差支なきカ本来之道也
貧々々々富々々々其出所ヲ見よ
一切カ陰陽程能和合カ大道也

△恩ヲ報ふトハ米取テ喰て其残糞シニスル也
忽而恩有方江報返スカ道也 君ノ恩返す忠
トナル親ノ為孝 田畑ノ為糞 間違ふても
本□成

△恩ヲ報ふ報ひて居レハ一ツ勤テ三ツ徳有
衣食住三ツ工面スルニ不及候也

△人ヲ遣ふニハ食から先 人ニ遣わるるニハ
行ヒから先

△十里行ク十里帰ル恩ヲ報ハン思心ト。恩請
ルヲ好心トノ違ヒ皆心ノ居処ガ違ふ也。仁
ト不仁也

△下界カラ見ルト上界カラ見ルトノ違ヒ也
家ヲ譽ル者ハ己カ家悪キ故也 能家持人ハ
人ノ家作見テ氣ノ毒ニ思也

△^{四月十三日}雀ノ了簡ニハ粟稗ノ穂喰ふて居ルカ樂ト思
ふ也 十万石ノ了簡ニハ鳴子以追ハねハナ
ラヌト思也 十万石作ルニハ先田畑ヲ發シ
人ヲ作ラネハナラヌ 穂斗見テ居ルニ依テ
違ふ 畑ケヲ先ヘコシラエルカ道也

△改革セント思ハハ。其ノ前其ノ前過去シ先
祖ノ暮シ方。思召等トクト了簡ヲ見テ。今
日ノ見当ヲ付テ見テ其上デ。論ヲ聞ニ来ル
ト差図スルニヨイ

△当座ノ日庸錢ニ目ヲ付ルカラ違ふ。身上仕
上ルヤツハ。皆先祖ノむかしを^{モノハ}雇リ見テ。
勤ル故に今日榮える也

三才ノ輪能々くり返し見て天地四季人間禽
獸草木ニ至迄三世之理を明らむる時は貧富
貴賤也 輪廻年々時々押込テ今日迄自分の
迷悟決定スル時道ノ本体今日ニ有事現然也

△物ハ付に 大ヒナル物ハ針ノ目の差違ひ

長ヒ物は駒下駄てからから渡る日本橋

△能己ニ勝テ礼ニカエルハ仁ヲフクス^{スルナリ}

私欲ヲ能ツブス者ハ自分先ヘ行故ニ世界中
腹^{フツ}ス也 己ニ勝トハ身上有切差出ス時ト針
メトノ差違ふ時ハ空一杯也 是迄我物ハ垣
根ヲ結タモノ故只今残らす差出し自分ノ方
ニ少^{ノ金モ}もナキ故ニ天下ノ物皆我物トナル也

△千両箱モ豆腐や塩ヲ買ニハ両ガヘして。又
八文^{五文}ツツモ小分^{ツケ}して遣ふ如シ 聖人教大道
モ小分して五輪五常又々今日ノ勤行飲食迄
用ユル也 然ハ今日自分自分勤行時々刻々
ム積リ積リて聖人ノ大道ト成 又五文三文
ツツ積リ積リて千両箱と成

△弘法大師御加持被遊候所ヘ油カ出ルト申事
難有事也 是案スルニ大師天ヘ誓ヒ玉ヘて
世界中ニ而或コボシ。ツイヤス所ヲ引ヨセ
玉ふト見ヘタリ 今爰ニ譬レハ米杯計ニム
シロノ下渋紙ヲ敷てスタル所ノ米ヲ集ム
是世界中ニ而多分事也 又青黄赤白黒ノ種
ヲ植レハ夫々赤キハ赤ク加持タト同シ 大
地ノ底ヘ仕掛テ有故種時テ祈禱スル也 供
物ニハ七日七日めに糞スル也 故ニ春カ祈
禱キク節也ト

△傾城夜タカ類穢タル金銀取事ニハキタナイ
又遣ふニハキレイ也 米塩之類 又大見セ
ナトいかにもキレイニ取也 若者ナトキタ
ナク遣イステル也 草木ノ根ト葉の如シ
キタナイト 有世界也

△貧家隠居婆カ少シ田ヲ作り世界ノ大豊ヲ願
ふ也 或ハ天氣ナトヲ願ふ^歌
諸共に無事をそ願ふ年毎に種カす里の賤
女賤の男

△火鉢ノ火ヲ消スニハ火箸ニ而遠クカラ炭ヲ
カケカケスルト自然と消ル如シ 悪人モ遠
クカラ道ヲカケカケカケスルト自然と能人
ニ成ル 又其火ヲ善人トシテ火鉢ノ中少シ
ノ火ヲカキワケアヲクトタチマチ善人多ク
成ル 依是仕法ハ恵々々貸々々又夫カラ取

ル取ル取ルト云テ互ニ出精出世ノ法返す返すも報徳不可忘

△一切事品ヲ替々譬ヲ取替テ押テ見ルヘシ
△菩薩仏。人ヲ助クル歟

此二道之外なし

餓鬼道。人ニ助ケラルル歟

助ルトハ譬ハ道中ニ而雲助ノ荷^{其後}一かた助テヤルカ如し助リタイ人ハ同道ヲ聞テ夫^{其後}人ヲ人ヲ助ケタク成如し 夫^{其後}来ルト道ヲ教諭ノ耳明テヨシ

一村発して外へ手ヲ付すに見て居ル 夫^{其後}一村ツツ発すヘシ 急くへからすゆるすへからす

△一統へ引札ヲ出し其薬を買に来た時ハ其薬桜町ニ有ト云カ如し 御大切ノ場合也

△何ノ国何れへ出テモ勝法有り。自分勤行して。木綿^{キレキ}切着物ニ而わり飯ニふすま味噌喰ふ居ルト。是ニ而勝あふせる也。尤着替着物有時よりあやうしあやうし

△論ヲ聞利ヲ聞テ感腹いたし候ても其方ノ正業如何と問詰ルト其時分別ト成也^{加へて} 善知識ニアフコトモ教ユルコトモマタカタシヨクキクコトモカタケレハ信スルコトモナヲカタシ

△智愚男女ニ不限明徳明力故ニ聞ユル人ハ譬影ニ居テモ知ルル也 流ニ而茶碗洗居ル女有咄ノ要之時ハ不思止ム也 又糸取女影ニ而聞居て大切ノ咄シ要ト云時業止ム也ト

△天子王城トイエヘトモ捨置ハ猪猿の領分トナル也 万民ヲ助ケ養人道ハ天ニサカロウモノ也 堀川埋ムも如斯 故万民ヲ助ルノ道ハ天へ御ワビ申上ケテ人道ヲ助ル道ヲ勤行イタサヌト天ノ罪ヲ受ル也 故ニ如何ナル道ニ而モ自分ヨシト思心出レハ直ニ天罪ヲ受ル是慢心出ル故也 天へワビシテ其上ニ世界ノ助ル為筋ヲ勤行スル事肝要也

△芸者杯買金銀遣捨ルト其親方其親兄弟中間同士カラハ悦ブ也 天道カラハ御ニクシミ

ヲ受ル 又買人ノ親兄弟カラハ則きろふが如し 又奢普請家作諸道具も其類の友同士ヨリ見てハ悦^{ニク}譽ル也 天道聖賢カラハ御惡ミ玉ふ

△理ヲ極メ道ヲ聞テから見ると衆人の行ひ益ナキ事ニ骨折光陰ヲツイヤス事氣ノ毒也

△世界ノ初メハ苔カ出来草カ出来枯レクサリ幾千万歳後木カ出来又葉落テクサリテ幾万歳モ陰陽雨露昇り降テ虫魚生し又万歳ノ後鳥獸生し末ニ至テ人間生し

△栗モイカカ先出来しふか出来夫^{其後}実カ出来ル万物実ハ末ニ成る也

△ぼうふら虫水の中生す 人ハ寿命の中生して居る故寿命尽る事なし 形カナク成斗

△椎茸株ヨリ生して茸ハ株ヲしらす

秋来れハ山田の稻を人と猿猪と夜屋争ひにけり 人は作物ヲ作れ猿猪カ喰故政道スレ共獸の方ニ而ハ自分の領分をとられし心地なり

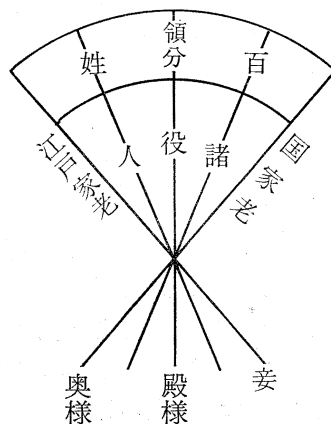
△陽々と重る時ハ必凶

陰々と重る時ハ必凶

陰陽陰陽夜屋寒暖有カ故ニ相續スル世界也

△人を見る事きき酒の如し 少聞たら酒同し人も善惡邪正貧富直ニ知れ也

酒屋ノ借りを豆腐屋へ払如し 門達の払親先祖^お家株ヲ以遊女ニ遣奢ニ遣捨恩ヲ知らさるハ皆門達の返し也



天保十己亥四月十九上天氣 青木御仕法
見分ニ御出

先生御子息

二宮弥太郎様豊田正作様御出ニ付御供申候
天保四巳年御趣法村ニ相成候当亥年迄七ケ
年目 用水川筋長ク至而六ケ敷場所。大水
之節村々切候所。二宮氏御工夫ニ而出来。
夫々長サ千間余川はら三間斗之新川出来。
開発地上之地ノ場所五拾町余出来。外畑方
四十町余開ケ申候也。右青木村高八百五拾
石之所荒地たる成。家数二十八軒ト相減。
極難村ニ相成居候処。當時家四拾貳軒。借
屋隠居共五拾軒余。六ケ年之間之趣法ニ而
村立直り。去冬々当春迄ニ四軒新造普請出
来。角助 竹蔵 庄次郎 平兵衛 右四人の家。何れも三間半
々四間張八九間之上々家御立被下候。当春
堰普請橋出来。隣村又御他領高森村大川迄
ヲ引越候種。七十三軒壹寸板ニ而三尺巾樋
普請。青木村名主勘右衛門世話ニ而出来仕
候。右ハ他領隣村高盛村へ助合也 余リ難
有事故あら増をしるし置 十九日御供ニ而
見分仕候也

古歌道すから豊田氏御嘶

△子ハ裸カ父ハて□らて早苗河岸のいはらの
真白に咲 是ハ

△箱作りテモ仕上ハ釘ヲ打 又其上に金子カナゴ
(釘カ)を
打也。小前も身上趣法立候ハハ針ヲ打。又
出精仕候也 其上ニ金子を打。キビシク取
立テ直ス 弥仕上又金遣也

△扱神代杉ノ類ひ埋木有 本末中何れへ鋏か
当テモ杉ハ杉ト知レル也 今一鋏先か当ル
ト松杉何木とアラハルル事眼前也 今出た
所から見ると知れる 餅米歟うるち歟粟歟
稗歟何ンテモ蒔た種か生へる 忠歟不忠歟
貧歟富歟邪歟正歟

春の野に芽たつ草木を能見れハ去りぬる
秋に実法種々

○百文取た錢を五十文残して向へ出し置き壺
石取ツたら五斗引て残りを向へ糞出し置一

寸壹刻もかへらぬ世界何代過ても種の生へ
る止ル事無き下々田畑も外から上々土を持
て来て入ルト作か出来ル ヨイ土を手桶一
ツ入レハ夫丈出来ル 子を育てる如くに小
前を思ふて發したき也

△万事骨折て有から見る人か見ると甘ミか出
る此理か分ッたら正業以来て見せるか能い

△上たる者ハ下々テ道に入らぬと云

小前てハ上デ道ヲ御行ひ被成ぬと云

上下ニかまわす。我人勤行すれハよひ

△弱あうぎてハ。小骨斗てハ用に立たぬ。親骨を先
へ作ると小骨ハ自然と随ふて出来る。故ニ
親骨か来ルト相続か早ひ。風モ親骨が有か
ら風にまけぬ。小骨はかりでハ上らぬ。風
にまけるから用にたため

△改革して僦服着れとも内ニ能物残し置くハ
穩蜜奢の種となる也 皆是身上ノ敵也 切
たたみ着替のなきか身方也 いつでも入用
之時ハ買ふて用ゆる也 自隠の吟 世の中噂ふてはこして
寝て置いてさて其後ハ死ぬるばかりぞ

△天地ハ冬至ヨリ息ヲ吐始メ夏至々息ヲ引始
る也 故ニ天地ハ一年ニ出ル息引息の一息
なり 人ハ一昼夜に三千五百息以テ生テ居
る也陰陽息なる故ニ山上より寒来たり里ヨ
リ暖氣始る也

△報徳之道ハ貧富上下ニ不限勤安き出来安道
也 譬へハ雲助篤一町ニ而モ先へ持越か報
徳也 又乗人ハ少ニモ遣スカ報徳也

△富貧 大切に心考也一切不断行也

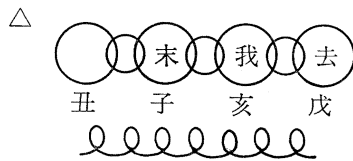
△田の水モ行アタル時ハアシキトゾ 金銀も
取々々積り積りする時害来タリ貧ト成 道
中スルニモ泊り十里行テハ泊り休むに依て
明日の道歩行スル如し 一切之事一度ハ休
ミ一度ハ先へ進ミ又休ミ根ヲ張是休ム也陰
也 又陽ト先へ出る故ニ尽る事なし 小人
ハ陰々と重ねる故貧と成也 又陽々と進故
害と成也 大道ハ陰陽陰陽と勤るヲ道と云
也

△金子證文なし合人なしといへとも何月何日
と書テ日月か證文と成る也

△穀物を取上テ干ハ吳子の御見分受て其上俵
トスル也

△田植もとろ足て隣へ手伝か誠の道也 夫ヲ
小人ハ自分仕事片付テカラ手伝故時節かお
くる也

△世の中の事ハ万仕掛て死ぬる天理なり 春
夏秋冬時々刻々草木止事なきか如し



門前立礼窮民起發精談所

来ル者ハ可問勸農

帰ル者ハ可勸農耕

各 即乗僧也

大根屋^時あざみ草己カ針をハしらすして花と思ひし
けふの今迄

△大公望カ詞ニ

東照宮御遺訓^{ニアリ}天下ノ目ヲ以見天下ノ耳ヲ以聞

天下ノ事心ヲ以オモンバカレト云リ 又大
学ニ十日所見十手所指トイェリ

△尚書ニ徳ハ惟レ善^ニ政政ハ在^ニ養^ニ民^ニ

△国ヲ亡ストテ国郡村里ノ形ヲハ少モ亡フヘ
キヤウナシ 其所々ノ万民ヲイタメ苦シメ
民ノ心ヲ失フヲ国ヲ亡スト云フゾ

△嗜ト奢トヲ取違ル物ゾ 嗜ト云ハ身ノ苦シ
ミ大形ナラズシテ身代ヨリ過分ニ入用ノ物
ヲトノヘ置 常ニ家職ヲ忘レズ是非ヲ能
正シ誰カ前ニテモ理ハ利非ハ非ト云者也
是ヲ侍ノ本意嗜ト云也 奢ト云ハ家職ヲ失
ヒ武家ハ公家ヲ学ビ出家百姓町人カ武家ヲ
学ヒ我家職ヲ非ニ見ル者ヲ奢者ト云ふぞ
我業ナラヌヲ好ク者ハ譬ヘハ松ハ常盤ノ色
ナレ共花ナキ故景ナシトテ藤ヲ松ニ這ハセ
松ニ花有藤ノ森ナド云テ是ヲモテ遊び後ニ

ハ藤カ成長シテ松ヲ巻カラシ藤モ枯ルル如
也

△正直慈悲智慧を神徳トス 此故ニ誓詞ヲ用
ユルニ大事有リ 大将ノ大秘事なり

大名衆身上滅亡ノ様子ハ色々替リ有レとも
其元ハーツ也 故ハ人ヲ不知シテ小人ヲ用
ヒ民ヲ苦シメ民ノ財ヲ奪ヒ取テ蔵ニ入給ヘ
ル天罰也

△世ニ恐ロシキ物ハ侈り也 奢ル者ハ主ノ家
ヲ亡シ身ヲ失ヒシモノモ。イクラト云数ヲ
知らず

△人ヲ助テ礼ヲ待ハ十六文持テ草履三足も取
か如し之心也 夫テハ助テモ有難ガラヌモ
ノ也

△^{七月}奢リツノリ候時ハ天ヨリ御役取上ラレ夫カ
ラ自分身上取上ラル也

△大借ニテモサイソク人来ラヌト。イケンス
ル人ナキハ。天道ヘ待出シ手代ナシに自然
と天ノ御サイキヨ種々好イタル物ヲ見せて
取上ル也 女道具類也

△米搗カ臼ノ外斗ヲ搗よふな物じゃ 中ノ同
ジ所ヲ辛抱して搗テ居ルト自然ト米カ自ク
ナル如し 身上モ如斯

△大家家督人ハ給金ヲ取てノ上ニ自分ノ仕事
ヲスルカ如シ 親先祖ノ株ヲ取なから奢己
而ニフケリ奉公人ナドハ^{キビシク}厳敷遣イ自分ハ奢

△相馬様御医師来ツテ先生ニ問シ咄シ 今ノ
^(親カ)儒者講訳シテモ弟子共不用故不^{ルモ}勤学^ニ同シ
ト云 先生曰夫ヲ譬ハ上白ノ飯ヲ灰吹敷糞
桶移し上ケテ夫ヲ弟子ニ喰ヘ喰ヘと云か如
シ 器物キタナキユヘ何程能キ書物ヲ読入
レテモ其師ノ行惡ケレハ喰ヘかナイ 又問
水戸賢君公之御領分ニ荒地有事如何か上之
御事下ヘ不^ニ通又下ノ事上ヘ不^ニ通ハ何故と
問 先生答ヘ譬喜勢留出し頭ハ御上らふ竹
ハ御家中吸口ハ民也 其中ノ竹ニ旧弊ト云
ヤ^ハ脂^ハカ^ハ詰^ルゆヘ也ト

中^ニ至誠之道ハ可^ニ以前知^ス 国家将^ニ興^ル

必有^ニ禎祥^一国家將^レ亡必有^ニ妖孽^一 見^ニ乎蓍
龜^ニ 動^ニ乎四体^一禍福將^レ至^ニ 善必先^ニ知之^一不
善必先^ニ知^一之故至誠如^ニ神^一コリ花
きさやう□ツホミ

△黑白陰陽昼夜 善惡 貧福 貴賤

△吉凶禍福アザナヘルイ(糾纏)縄ノ如シ 黑白紙ヨリ
縄譬ヘ也 祝フ跡ハ悲ミ 仕合 生死 散
咲 是堅天ノ誠の道 夏暑道 冬寒道

△高天原^ニ神座スメムツ座須皇親神漏岐神漏美乃命^ニ於^ニ以^一
天八百万ノ神等^ニ乎^一神集^ニ集^一賜^ニ比^一神議^ニ議^一賜^ニ天
アスミマコノミコトヲバ アシ
吾皇御孫 尊^ニ乎^一波豊草原乃水穗乃國^ニ於^ニ安國^一登平
シロシメネトコトヨザシタマツリ ヨサシ リシ
介久所知食登事依之 奉 幾如此依之奉志

今此界直ニ豊草原也安國ト平ゲク

一反発セハ一反実法一枚発セハ一枚ツツ実
法年々歳々発シ發シテ一國讓ヲ發ストモ云
ヘキ故一人助ケレハ一人ナツク 二人恵ハ
二人助ル 爰ヘ付込テ金借ニクルハ猪ノ出
ルカ如シ

△早起ニまざる勤のなかりけり 夢テ此世を
暮す身なれハ

參勤仕ナカラ寝テ居る大名旗本もあり

株家督以テ寝テ居る町人百姓もあり

△大藏界ノ大日 人心也

金剛界ノ大日 道心也

△天恩ヲ受テ地ニ施シ

親恩ヲ受テ子ニ施シ

仏恩ヲ受テ僧ニ施シ

身上ノ業ハ無理

無理時ハ無理の木生ヘテ無理の花咲つつむ
りミのる幸也

○君子防^ニ未然^一心不^ニレ^一処^ニ居^一嫌疑間^ニ 瓜田
不^ニレ^一納履李下不^ニレ^一正冠

○^(喰カ)□□謀ニ入可問事 利ヲ以スルカ
機ヲ以スルカ

○從^ニ天量^一地理 背^ニ天開^一田畠

一從一背以分^ニ天道人道^一

人道開^ニ田畠^一 天道廢^ニ田畠^一

人道植^ニ五穀^一 天道為^ニ生育^一

和^ニ天道人道^一結^ニ百穀実法^一

原一變為^ニ田^一。田一變為^ニ稻^一 稻一變為^ニ米^一

米一變為^ニ人^一

樂^ニテ果ヲ減シ 苦^ニシンテ徳ヲ増シ 何

れトモ御勝手次第 右三志述也

○ 食之尊事は身命ニ勝ル事也

故ハ食ノ為ニ身命スツル者多シ 身命為ニ
食ヲスツル物ナシ

明德^{色ハ} 形心。動靜スルハミナ天地ヲ法トス
ル事。元ヨリ也
明^{明ラスルトハ}ラスルトハ^{計リ}テラスト云ハ本体也。曇ルト云ハ變也。私
心ノ出ル也

○川ヲ越ス船頭ノ如シ。趣法の岸ヘ付迄。夫
迄ハ苦シムガ道也 川中ニ而立 帰ルニ同
シ。可考可慎

○天命ハ過去之^{積善}積。不善之果ニシテ。極リ切
テ有世界也 米種ヲ蒔バ米カ聴ル 喰ヘハ
減ル 此三ツ 上天ノコトハ声モナク臭モ
ナク至レル哉是万物万事大小ニ順テ變化シ
テ。また變化せず 誠ニ難ハ有大切之場也
天地開闢ヨリ如斯世界也 故ニ今日家株有
無。則天命也讓レハフエル。名聞ニ奢レハ
減ル。

一切行の通り來ル天ノ御さい
きよ故ニ天命ヲおそれ慎ムベシ

今年衣食在昨年ノ産業

來年衣食在今年艱難

去年の实ハ。今年の種と成にけり

今年の実法。來る年の種
今年的事ハ。去年の天命ニ定リテ有リ。來
年の暮シハ。今年の取穀ノ天命ニ定ル。恐
テモ可^ル恐。受財ノ樂身 年々月々
時々刻々

勤テモ可勤苦身 施財

勤勞シテ増シ遊樂シテ減シ

来世ノ仏ハ此世の善也

来世ノ地獄ハ此世の惡也

天保十己亥年八月廿二日

野州芳賀郡桜町御陣屋着

問天狗雷杯ノ不思議如何

○**対々ニ居テハ何程考ヘテ不_レ可_レ知ルナリ**

夏ノ虫春秋ヲ知らず 蚊ノ心ニ而ハ冬ノ雪
ヲ知らず疑カ如シ 我ト云心ヲ捨テ天地無
心ノ場ニ至テ見ル時ハ雷天狗モ有ヘシ又知
ラルヘシ

白隠禪師歌ニ 奇妙不思議ハひとつもないぞ
しらにや世界が皆不思議

○**譬ハ火ヲ打ハひっかりノ間モ手ヲ打音モ人
間ノ六十年モ同ジ 寸ノ間モ跡ヘ帰ル事ナ
シ**

○**鍋ノ水煮立モ鍋ニ穴有故也 火ノ細密成故
其穴ヲ通り水ト交ル故煮立也 万物ノ大小
又過去未来現在モ其物ニ成テ見ル時知ルル
也 貧福モ其物ニ成テ見ル時友ニ苦ミ友ニ
勤テ友ニ樂ムノ外道ナシ**

○**雷落テ大木ヲサクモ落ル力也 万ノ物向ニ
相手ナケレバ皆消ル也 火ヲ打テモホクチ
ナケレハ移ル事ナキガ如シ**

○**勤苦シテ貯ヘシ金銀と利ヲ取テ儲ケシ金銀
トハ子孫ニ譲リテ浅深厚薄ノ違ヒ有ナリ
仁義礼智信ノ化粧シテモ少シ汗出ルト又ヌ
ラネハナラぬ也**

○**米ヲ入ルル前ニ袋ノホコロビヲ縫ハネハナ
ラヌ 米ヲカツグ前ニ天秤ノ底ヲ改ル事
暮ヲ打ニモ敵方江打込前ニハ自分ノ方ヲ能
々_{カニミ} 顧_ミテ其上打込ナリ 善ヲ修スルニモ前
ニ自分謹ミテ我身_{改テ}顧_ミテ。其上善事ヲナスヘ
シ**

○**行燈ノ火細キ時ハ火取虫来テ火ヲ消也 用
心スベシ 炭火沢山ニナレハ消ヘテモ亦付
ル事安シ 是只今道ヲ行ふも大切ノ場也
道基ノ金細キ故消安シ 心付ヘシ心付ヘシ**

○**昨日喰タ味ヒノ^(心カ)因縁ニ引レテ酒食美味ヲ好
ム知らざる女ト身中仕タ事ナシ 行燈ノ火
ノ届ク丈見ヘタ丈。自分ノ知モ知ッタ丈無
イ字ヲ読事ナシ。読ダ字ヲ引出シテグトグ
ト言ノジャ 釈迦ノ時ハ一字モナシ 空ヲ
見テ説タノジャ 物ナキ時ホシキ事ナシ喰
イタキ事ナシ 見聞覚知ノ因ニ引レテ善惡
ヲ語ル也 然レ共力丈也 男女ノ色情父子
ノ情ハ是則天地自然也**

○**長芋ニ成ツタラ長クナレ 唐辛ニ成タラ無
情ニ辛クナレ 茄子ニ成テカラ瓜ニナロフ
ト云タトテナラルル物歟 貴賤貧富モ如斯
アカラム迄勤_{ヤル}ルノサ**

○**土龍ニ成テ三尺下ヲモグッテ見ヨ 御領私
領ナシ 鳶ノ兎取カラ上モ御領私領ナシ
少シノ間ヲ六ケ敷云也 空ハ仕方ナシ**

○**五十歳ノ人五十一年前ヲ堀テ見ヨ 死テ後
ヲ見ヨ何モナシ 腹立テモ仕様ナシ 金錢
不取前ニハ仕方ナシ 遣テ後ニハ取返し様
ナシ**

○**ホシイ惡イヲ取テ仕舞テ妙アリ 死ンテ後
ニ妙アリ**

○**白紙ノ本読テ見ヨ 色即是空 是カ本ヲ見
タノジャ ナイ正物ヲ見テ言ッタノジャ
頭カアレバ尻尾カ有 上カナケレハ下タカ
ナイ 覺ヘテモ覺ヘナイデモ。知ッテモ知
ラナイデモ其通天理自然の因縁因果 銘々
ノ勤次第**

^{八月廿六日}
○**具ニ一切功德ニ慈眼視ニ衆生ニ福聚海無量是故
應ニ頂礼ニ。向觀音。我衆生。我觀音。向衆生
米売ニ行衆生買人慈眼視衆生ト米ノ善惡
升改相場ヲ立ル 是觀音也 風ノサット来
ル是衆生也。是ヲ觀ル是觀音也 故ハ生物
ハ皆觀音也。日月照前虚空藏也 理倍モ虛
空藏ノ業也 地ヨリ生ル物皆地藏ノ開帳也
草木地ヨリ生タスルヤウナレトモ天ヨリ地
ヘ光明氣候押込故ニ生タスル也 水片口ヨ
リ器ヘツキコムト下カラ殖ル 是天ヨリ下**

へ押込故下カラフエル也 草木モ天ヨリ日
ヲツキ込故ニ生タスル也 天ヨリツクト云
モ日ノ当ルト云モ同シ

△成仏とハ心欲スル所ニ随フト云事

○往生トハ今伊勢参タカライセへ行

今仏タカラ死テ仏也

今鯉タカラ干テ鯉節也

今貸テベルカラ金持 | 世界陰陽トタンノ大
ニ成 | 道也

一年中借テ置テ大卅 | 水花モ作ルハ陰

貸ニハナラヌ | 実ヲ取陽也

願以此功德平等施一切 是則隱徳也
明日之事ヲ動ルハ隱徳也
同發菩提心往生安樂国 隱徳有レバ必陽徳アリ
願ハ此二百文ヲ以平等へ施

○植ナイ茄子ヲ切ル事ナカレ 植ナイ豆ヲ喰
事ナカレ

○己カ仕法立テ。取レル程取ルハ。長刀ヲ差
²⁰⁾
テ来テ取るニ同シ

○浄ト不浄テーツ泥中蓮ノ如シ

○一切過去因縁 虚空蔵地藏観音 色即是空
也 是則大学中庸論語ハ正業也

○一切ノ樂ハ差向二人而已 大道ノ樂ハ平等
也

○居風呂之事 水ハ下ヘモル 天下ノ財宝ハ
上ヘモル 奢ハ上ヘモル也 故貧カ潰ル也

○春道具秋イラス 秋道具春イラス 身上作
ル道具ハ富貴ニ成テイラス

○煩ハ喰タイ。病ミ惱ハ大食ノナヤミ

○信而古ヲ好述而不作 猪ノ足跡 鼠の足跡
惣テ大小ノ跡有 鼠カ小足跡ヲ恥カク思猪
足跡ヲ作ニ似タリ

○草ノ生シタルハ去年ノ種ナル事ヲ能々承知
之上向ヘ出ル也 草木モ生シテ花咲ぬハ間
違也 花咲テ実法ラヌモ間違 身上も如斯

○物有ニ本末ニ事有ニ終始ニ知ル所ニ先後ニ則 近道
矣是本ヨリ解也 己一人ヲ納テ一家内納一
村ヲ納メ一國納リ夫ヲ天下ニ怨也 田畑モ

一畝ツツ日本モ同シ 草木に云事を聞かせ
ナツクルニハ肥し也 鳥獸虫魚ヲ云事ヲ聞
かせるも食物也 夫ヲ人を云事を聞かせル
ハ道ヲ以スル也

是テ仕舞也

草木糞 禽獸食 人ハ道ト財宝

のりを増せは蠅が来ル 食ヲマセハ人が
殖ヘル 馬を捨ててハ犬カ集ル錢ヲ出セ
ハ人カ集ル

此方カ骨折リ苦スレハ向カヨシ

女カ樂クスレハ男カ苦シ。上ノ骨折ハ下カ
吉。糞ハ掛た切。人間界ハ一人助ケレハ万
人ヨロコブ也

○東西南北天地是六数根也 三世也 三六
八十也

○干大根カタク成テモ湯ニ入ルルト大根ノ本
性出ル也 人モ欲ニカタマッテ居タモ度々
^(チカ)
道ニシタスト本性出ル

○頭カ大根ナレハ尻モ尾モ毛モ大根也 貴賤上下
人ノ心如
斯

○神儒仏三道其々派々宗門宗旨色々ニ別レ共
天地ノ外ナラズ 譬ハ柄杓ニ汲シ水ノ如シ
器ノ違也 杯茶碗五色之色器ニ汲カ如シ
本ハ水也

○愚人モ智者モ行フガ大道也

○今日ノ業ヲ以正不正ヲ知ル

○恩ハ君ニ向ヘハ忠 親ニ向ヘハ孝 借財ニ
向ヘハ返済トナル

○強欲剛人ニハ柔ヲ以示 故ニ出入師杯ヘハ
必女ニ迷也 鮑ササるヲタコヤワラカ成足
ニ而穴ヲフサク事ある如シ

○三尊ハ父と母と我也 天地人也 相和シテ
道ト成三世也 万事三度化シテ成熟スル也

○消盡ノ火ノ事

○外堅固ニ構ユレバ必内ヨリ破ルル事

○鷲鷹ノ巢鳥ノ子ヲ抓ミ取テ我子ニ食スルモ
欲深キ人が貧者物ヲ抓取テ我子ヲ養ふ如
シ。又名聞奢ニ用ユルハ禽獸ニ同シ

亥八月廿六日

- 金銀利倍モ種と実ノ如シ 是皆因果ノ理ナリ 富貴モ因果是祖先因也 大平ノ御恩沢ガ目口カラ染テ奢リ種々ノ器物道具ヲ好ミ泰平ノ大海ヘ落入 果ニハ身上モ身モ亡ルナ也

陽々と富貴重ル時ハ陰々と貧乏ニ成也 照々と重ル時ハ降々と重ル如シ増減ナシ 天地人ノ外ナシ。人間トハ天ト地ノ間ニ生ル 故ニ二間也ト知ルヘシ

天地人天也地 虫 獸 禽 人 是天道通ノ生命ヲ養ノミ 仁天 地 外人ヨルハ是則 天地両村ノ間ニ人間禽獸草木生ル故 天カアラハルルニアラズ不増 地モアラハルルニアラズ不減 父母ノ間ニ生ル

我身ハ父ノ物ニアラス 母ノ物ニアラズ 両村ノ間ノ川ノ如シ 故天ト計云時ハ地モコモル也 天地ト云時ハ一日ヲ昼夜ト云如シ 父子夫婦兄弟朋友之四倫ハ天道通り自然ニシテ道ト云事ナシ 天照神在マシテ君臣之道立 是ヲ加ヘテ五倫ト云 是人道ハ讓ノ初リテ斯目出度御代とナレリ 是則食物(殖カ)聴ヘテ君臣父子ノ大道五常ノ全キ也

- 犬カ死馬ヲ沢山喰テ。土手ヘ上リ寝テ居ル様なもので人も沢山喰ト犬ノ重食シテ土手ヘ上リ寝タ心地スル故ニ。遊芸茶湯ト段々奢リ。我身上商売ヲヲ不足ニ思欠廻ル内ニ。死馬ハ外ノ犬カ喰テナシ

- 鳥や雉子ハ夜中ノ苦シミ 夜カ明ルト嬉シ廿七日キ故鳴事嬉シ

- 大学ニ止ル事ヲ知ルト在リ 利倍ノ元金壺両ハ則一町目ニ止ル也 夫ヨリ二町目ニ止ル 三町目ト止ル事ヲ知ルニ在ト云 貧ノ一町目トハ足ル事ヲ知ルヲ止ルト云。故ニ千石万石ニ而モ不足云ハ止ニアラズ。故ニ百石ノ身上五拾石ニ引下リ。暮ヲ定メ。残り五拾石ヲ以讓ノ道ヲ立行ハ。則万代不易ノ場ニ止ルト云。

- 一反ハ一反丈ノ五味有リ。二反ハ二反丈ノ甘ミ在リ。外ヲ不願一畝壺分なし共。此身

ヲ讓請シハ父母ノ恩也。是ヲ不足云ハハ禽獸ノ類ナリ

- 泰平ノ御代御恩ニ居テ常々巻藁ヲ射ネハ爰ハノ時手柄ハ出来ぬ。故ニ百石ハ五拾石ト欲ヲ離レテ勤メ居ルト。幸ひ来ル理明也。
売人アキも常ニ元値ニ米穀売テ居ルト。爰ハノ時ニ売人ウツリ来リ。買人来ルノ幸ひ明カ也

- 古語福録寿讃ニ曰 星而非星。人而非人。謹而能敬福録自臻

二宮氏 父母も其父母も我身なり 我を愛して我を敬せよ

- 聖人ハ世界開ケテ途中ニ出玉イ道ヲ説玉フ 御心意ハ讓ヲ以人道ノ教諭而已

- 亥(天保10年)八月廿七日夜
○芥子ノ実ノ中ニ世界有ト云事 生死ハ打テハひびくねばたへて在の音ならんうた

ねばたへて在 隨身ノ者共聞 元禄年中陰陽振替リシ云説三志師老の示スハ如何

- 答三志ハ水ノ下流ヲ生と見火ノ登ルヲ生ト見シ故陰陽振替リシ云出セシ説ならん歟

陰水
陽火

- 夫山上ニ水有 又麓ニ水有 考ルニ水土中有中高山ヘ登ル 是則生水也 土中ヲ離出レハ低ニ下タル是死水也 故ニ水ノ下ルハ古里ヘ帰ル也 譬ハ草木ノ枝葉何程上下ヘ曲リ候而モ水気根ヨリ上ル 是水ノ生氣也 又木ヲ離ルレバ水下ヘ下ヘト流 是死水ノ古里ヘ帰ルナリ 日則火也 空中ニ在ス時生火也 形アラワス時死火也 火草木生育ノ火ハ生也 真木ニ焼火死ナリ 人ノ血生中ハ体中上下スル 頭上ニ而モ疵付外ヘ頭ル下ヘ流ル死也 故ニ水ノ下ルハ本国江帰ルナリ 火先上ヘ登ルハ本国ヘ帰ルナリ 人の老又死スルモ本国ヘ帰ルナリ 故ニ万物生シテハ枯死テハ生 又生レテハ死止ル物無シ 是不生不滅ノ世界也 天ニ火空中有 万物照シ惠生育ス 是生火也 焼火焼木ノ火ハ上ヘ火先立ハ死火也 可味者也

- 馬壺正ノ世界尾ニ住風頭上迄何程ノ道法有

や不知 況や外ノ馬ヲ知ランヤ ヨシ知ル
トモ一疋か二疋ノ馬ノ外不可知股倉辺ヲハ
上々國トモ可思 日本計と思か如し

八月廿九日
○蠟燭付タト文字テ見タト同シ 蠟燭丈ノ心
見タ切其外ハ見へぬ 四文蠟丈ノ明リニ而
欲テモ何テモ夫丈ノ智也 皆喰ライ醉也
武ニ醉農ニ酔工商ニ酔テ居ル 是ガ迷故三界城也
食ニ酔富ニ酔宗旨ニ酔テ居ル
悟故十方空

亥(天保10年)九月朔日
○浅草蔵米桃太郎団子始メ札差某ニ飯焼奉公致し団子見
せ出シ大ニ繁昌ニ相成ても亭主ハ
今ニ御主家ニ而飯焼ヲスルト申事 曾比広
吉咄シ間シ処先生其御事ナリ

○是禁裏様同様万代目出度事

日本国之高式千八百拾九万石ヲ不殘公方様
江御譲リ被遊候也 東照宮ハ右之御高ヲ八
百十九万石ヲ以禁裏御守護被遊其上日本国
中之御政務御政事被下殘而式千万石ヲ以諸
御大名小名江御配当被遊候 是讓之第一ニ
シテ万代不易之大道也 是報徳之大道是也

○子日巍巍乎タリ 舜禹之有天下也 而シ
テ不^高与焉

○田畑沢山ニ成程不足ノ心念起ル。其證コハ
富ル程酒屋醬油屋次第ニ商売広ク始メ段々
ト乗出シ慈悲ノ心ハ少シモ無^ツ之讓心ハ猶
更無^ツ之手広ニ成ホド不足ニシテ種々災害
并起リ弥々身上チリチリ年々不足シテ其時
ニ至テ前々ヘ立帰見レハ田畑米金有福ナル
事ヲ始テ知ル 後悔ストイエトモ不帰時ニ
至而目覚ル也

○天道ハ善惡ノ行司ナリ

○村方近所之田畑ヲ吸取集メ集メ村内ニ而
出来シ米金積重十分蔵立段々奢々他国他村ヘ
遣イ捨テ村方段々貧窮シ果ハ自分ノ災害来
々々テ身上滅亡ニ及事無^ツ疑 故ハ近村近
国知音知家三代之前々貧福見競手本トシテ
可^レ恐可^レ恐

○高木風ニ打タルト云事あり。柿赤ナル時
ハ。葉落遠方ヘ見ヘ渡リ人ニ誉ラル。間モ
ナク熟シ落チツブル也。身上盛ニ成奢時。
世間ヘ名モ知ラレル時ガ。柿ノ葉落チ赤ク

見ゆルカ如シ。段々ノ因縁顕レ。種々ノ災
ひ来事天自然也。故ニ此意ヲ悟リ法ノ先ニ
立。身上引下リ天命ノ分限ヲ半減ニ落。余
リ米穀金ヲ以。村方近所趣法立。救助スル
時ハ。是隱徳之□第一ニシテ。永続之祈禱
是ニ過たる事なし

○浅草観音ノ蘭間一間一間に天人竹虎色々モ
壺間ツツ世界也 奢酒食モ壺間 ツツノ世
界。家業出情モ一間一間ノ蘭間ノ如シ
天道少シモユルサズ 道ニツ仁ト不仁ノ下
向道可^レ恐可^レ恐可^レ慎可^レ慎^{參詣廻リ 右廻}
^{下向帰廻リ 左廻}

○祖父ト婆ト互ニ讓テ和合ニ暮スモ天下ノ讓
合スルモ同ジ 四俵ノ米喰テ一人ニ而居テ
ハ道不立

○士農工商其業不^{カキヤツ}知シテ。家来任セル 故ニ
其家不立 主人其業ノ本ヲ勤テ。任セル事
(肝力)
腰用也

○御趣法ハ。外科医師ノ腫物ヲ切テ取り。其
上妙膏藥ヲ張ルガ如シ。其儘捨置ケハ羽生
風ト成。故ニ改革モ妙藥ヲ貯ヘ得テ人ノ改
革スヘシ。芋ノ草ヲ取タ斗デハ芋枯ルル
也。跡カラ鋤ヲ以土ヲ掛ルガ。妙膏藥也。

○極貧ニ成テモ止ル事不^レ能。富極テモ止ル
事不^レ能 是ガ自然ノ天道通也 人道ハ能
讓ル以道トス

○鉢植ノ松曲リクネル故生テ居ル ツウト延
上ル時ハ土カ極リテ居ル故不足シテ枯ル如
シ 土地身上モ如此

○女房出シテモ自分道行守居ル時ハ能後妻来
ル夫モ自分十分ノ勝^(手力)ヲ云テ出ス時。後妻猶
惡シシ 是女ノ方ヨリ出ルト。出ストノ違
ヒ可^レ考。可^レ恐可^レ慎也

九月一日
○曾子我身ヲ三度カエリ見ルト云モ。前後今
度也 三世也。日々ノ所作ヲカエリ見ル也

○知ト行ヒト合^ゴツ知ハ若シ 行ハ老ノ如
シ。知ハ修行也 行ハ勤仕也。正業ナリ
亦成就之所也

○迷モ半分悟リモ半分也 明ルキヨリ闇キヲ

悟ル也

○男男。女女。富々。貧々。行々。業々。教々。戒々。照々。降々。ト続テハ道立事ナシ 陰陽陰陽。貧富貧富。男ト女男ト女。夜ト昼。勤テ休 寒ト暑ト教ト行ト替ル替ル勤ル世界也

○明德ヲ明ラカスルトハ聞テ直ニ明らかニスルト云ハ。鋏を借りタラ直ニ畑ヲ堀也。^{コイ}糞桶ヲ借タラ直ニ畑へ持出ル也。借用イテサへ用ニ立ツ。教聞タハモロウタノジャ。夫ヲロデ斗云テ行ワヌハ。鋏ヲ借りて不遣ニ。其庭の角ヘナゲ込テ置如し。遣ワぬ前ニ取ニ来ルガ如し

○子曰道ニ千乗之国^ヲ敬^{シテ}事而信アリ^{用ヲ簡シテ人ヲ愛ス民ヲ使フニ時ヲ以}民又農業ヲ勤ル時ハ敬^{スハ}事農行ノ邪魔ニナラヌヤウニ業ヲ敬シテ仕事ヲ勤メサスル也

是民ヲ敬フニアラズ 事ヲ敬スル也

^{役ヲ敬スル事ヲ敬スル}観音之念彼之段と同シ。向観音。

又我観音。カワルカワルノ意ヲ觀察シテ。

慎テ勤ル也。

^{シテ}節^ヲ用而愛^レ人。使^レ民以^レ時^ヲ。上ノ意重ク成ル時ハ。下亡フ。下ヲ重ク成^{スル}時ハ上豊也。

是事敬シテ信アリ

○国起百^{クナミ}疊ノ疊モ自分居ル所ノ壺丈上ル事難シ 自分真先へ引上テ行時ハ一村一國行ベシ 己ヲナスハ仁ナリ 物ヲナスハ智ナリ 人ヲ助クルニ自分真先ニ行ハ聖人ナリ

人ニ助ケラルルハ衆生ナリ ^{身上投出シテ行ハボサツ聖人也 身上ヲ惜ムハ衆生ナリ}

○木ノ枝ヲ切ルト夫丈ツツ日当ル也 勤ムレハ夫丈ツツ糞スレハ夫丈ノ御輪紙天ヨリ下タルナリ。²¹⁾二俵地江ホシカヲ入レハ。三俵ノ御輪紙下タル如し。

○盗人暗闇ニ而盗取テ行燈へ見せる 燈火ハ日光ノ手代也 日天へ帰掛ノ見分故親方へ告願ル事早シ

○堯舜ノ教ヲ。孔子ハ^{ウケツツ}請^フ商人也^ア 甘酒造ルハ堯舜。弘メル人ハ孔子也

○言行一致テナケレハ人ガ承知セヌ。金貸スト云テモ正金貸サネバ借ニ来ル人ナシ。道ヲ教ヘテモ。自分行ハねバ。聞テモ用ヒ行人ナシ

○天恩国恩先祖父母ノ恩ニ而仕上ケシ身上ヲ自分ノ働き成ト思イ勝手ニ奢費ス事可^{フイヤ}恐次第也 利足壺割附ニ而金千両株ヲ質地ニ入二十年季ニ何程借用可仕ト云ニ当金百七拾六両余貸シ候得ハ二十年日ニ千両金手払ニ相成候事 此論シ。^{サトシ}銘々今日ノ借用如斯。今日ヨリ可^{サトシ}恐可^{サトシ}恐

○心ノ内ニ関ヲ立。自心製テ。天理自然ヲ悟ル則ハ。天下ノ為筋ヲ行ノ外ナシ。故ニ万事万物ヲ慈悲以恵ミ候ニハ。礼讓ヲ行イ是人道ノ至極也

念彼勸音力

21) 天ノ御ほらい有也